



イルカ通信

隔月 1 回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「小笠原で暮らすイルカたち ~#87~」

私たちの行っているイルカ調査では、群れで生活しているミナミハンドイルカの体にある傷跡やヒレの特徴をもとに一頭一頭のイルカを識別しています。観察履歴から、移動や個体間の関係などの生態を探っています。今回は先日のイルカ調査で出逢った特徴的なイルカの紹介をしたいと思います。



上の写真をよ〜く見てみると、背ビレの先端が欠けていることに気付くかと思います。この個体(ID#87)は、2004年から父島周辺で毎年見られているオスのイルカです。最初に個体識別した時点で、母親が近くにいなかったため、既に離乳したワカオス*だったと思われます。小笠原での平均離乳年齢が約3年であることを考えると、その年齢は13歳以上と推測しています。

この個体は最初から、背ビレが欠けていたわけではありません。これまでの記録を調べてみると、2010年4月まで背ビレの形に変化がないことが分かりました。しかし、8月に調査で出逢ったときの姿は大きく変わっていたのです。



#87の背ビレの比較

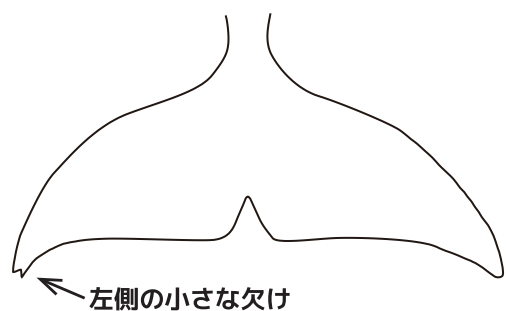
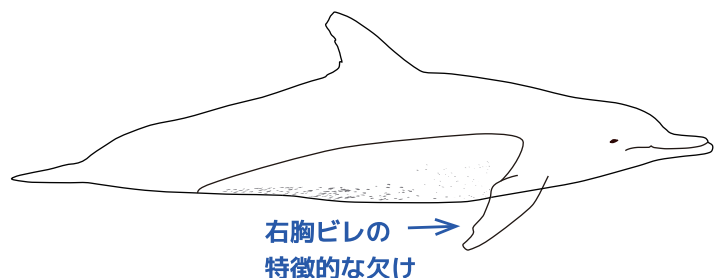
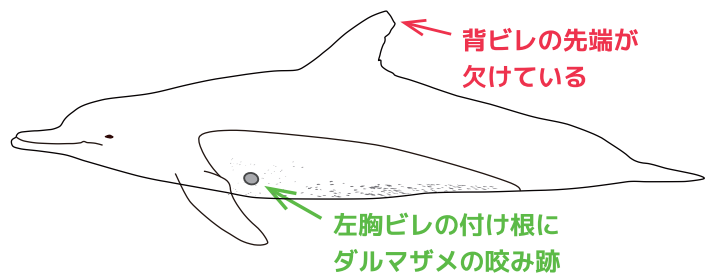
撮影日：(左)2010年4月15日、(右)2010年8月3日

*【ワカオス】

既に離乳していて、繁殖に参加する前の若い個体。
小笠原に生息するミナミハンドイルカの離乳年齢は約3歳。

背ビレの先端が欠け、また左体側の前方には大きな傷があったのです。体側部の傷は別の角度から見ると、深くえぐられていて、サメか何かに襲われた傷とも考えられますが、詳しくは分かっていません。調査隊もその様子を注意深く見守っていましたが、現在は大きな傷も無事に治り、元気な姿をみることも出来ます。

この個体は背ビレに大きな特徴があるので、船上からでも簡単に見分けることが出来るかと思いますが、他にも特徴がいくつかあるので、是非覚えておいてください。



#87を識別するためのチェックポイント

今回、紹介した#87は、私が初めてイルカ調査に出たときに
出逢ったイルカです。他にもまだまだ特徴的なイルカが
棲んでいます。皆さんのお気に入りのイルカは、どんな
イルカですか？このイルカ通信でも少しずつ、島に棲むイ
ルカたちを紹介していきたいと思っています。